

「活動を通しての学び」

社会福祉学部社会福祉学科 2年 富田 まり

活動先：NPO 法人 プレママクラブ

クラス：松下 典子 先生

この1年間サービスマーケティングの活動を通して学んだことは、NPOが地域にとってどんなことをしていてどんな影響をもたらしているのかということだ。わたしは今までにNPOという言葉聞いたことはあったが実際にどんなことを行っているところなのかまでは分からなかった。2年生になりサービスマーケティングのゼミを選択し、この1年間でこんなにもたくさんのNPOが地域に密着していることを知った。またNPOとひとことで言ってもその分野は高齢者・子ども・障害児者などがあり、団体によってそれぞれの特徴があることも知った。

活動をはじめるときに、まずは活動先である“みんなのき”で自分たちは何をしたいのか？何のためにそこで活動をするのか？ということから始まった。その時に自分たちで一から計画を立て実行する難しさにぶち当たった。お互いに意見を出し合いなんとか6日間で行いたいことが決まった。たくさんの準備をした上で行った事前訪問で担当者のかたと話し合い、自分たちで決めていた活動に変更点などもあった。この時点ではわたしたちの考えは大まかなもので何となくのイメージで物事を言っていた。たとえば外で運動を行いたい！だけではダメで、何をどれくらいの時間行うのか？まで考えないといけないと言われた。また子供たちを炎天下の中長い時間外に出すことは出来ないなどの注意点を教えられ、自分たちの立場で物事を見るのではなく子供たちの立場になってその活動は危険ではないか？どれくらいの活動時間が最適なのか？など改めて1つのことに対して細かいところまで注意しなければいけないことを学んだ。

実際に活動が始まり、最初は子どもたちは仲良くしてくれるだろうかなど不安がいっぱいだった。しかし本当に元気いっぱい私たちと向き合ってくれた。正直1日目は子どもたちと仲良くなるだけで精一杯だった。2日目に子ども同士のけんかが起こり、わたしはどうすることも出来なかった。その時にわたしはただ子どもたちと仲良くすることが目的ではないことに気付いた。初日はとにかくお友達になろうということしか考えておらず、自分は子どもたちにとって1人の先生であることを自覚しなければいけないと感じた。時には厳しく集団生活をしていく上での約束事や、人としてやってはいけないことはダメだと教えることも必要だと分かった。その後の活動中は、目の前の子だけを見るのではなく少しずつだが周り全体の状況を見ることが出来るようになっていた。1週間の実習はあっという間に最終日をむかえ、多くの子たちに、また絶対に来てね。と言われ、保護者の方にも一週間お世話してくださりありがとうと感謝の言葉をいただいた。長くて短かったような活動を終えて、改めてNPOというものの存在の大きさを知ることが出来た。みんなのきという施設はその地域にとって必要不可欠の存在であり、まだまだこのような子どもを安

心して預けられるような場所は足りていなく、地域に密着した施設が必要なのだとわかった。

みんなのきでは子どもを預かるだけでなく、働いている親御さんの負担が少しでも減るように、ピアノや水泳、英語などの習い事の取り組みも行っている。習い事の送り迎えの手間もなくすごく助かっていると親御さんがおっしゃっていた。また長期休暇中のお昼ご飯はお弁当ではなく給食を手作りしている。毎日約50人分のご飯を準備し片づけることは簡単なことではない。実際にわたしも洗い物の手伝いを行ったが意外と時間をとられ大変な作業だった。担当者のかたにお弁当にしないんですか？と尋ねたら、朝早くから夜遅くまで働いているのに毎日弁当を作るって大変なことですよ。給食にすることで親御さんの作る手間も洗う手間も省けると言われた。活動を通して見えてきたことは、確かに当たり前といわれればそうだがそこまで利用者のかたのことを考えていると知り、子育て中のかたたちにとってみんなのきの存在の大きさを感じた。

またみんなのきの建物のなかには、ダウン症などの障害をもった子たちのデイサービスも行っており同じ施設のなかでみんなのきを利用している子どもたちが障害児の子と触れ合うこともあった。わたしはデイサービスを利用している障害の子たちのことを子どもたちはどう思っているのだろうか。差別するような目で見ていないだろうか？と思った。しかし、子どもたちは障害がある・ないに関係なく一緒に遊んでおり子どもたち同士でうまくコミュニケーションをとっていた。わたしが小学生のころはこんな風に障害の子たちと触れ合う機会はめったになかったので、こういった小さいときから障害をもった子たちと触れ合うことは、多くのひとがより障害に対する理解が深まると感じた。

みんなのきは、ただ子どもを預かる場所だけではなくさまざまな人が交流する場となっていることが分かった。しかしNPOは人々の協力がないと成り立たない。これはわたしが1年間SLで学んできて分かったことである。より多くの地域にNPOがその地域の人たちにとってコミュニケーションの場となり、なくてはならない大切な居場所になるために多くの方にもっとNPOを知ってもらい協力してもらうことが今後の地域福祉に必要なことではないかと感じた。まったくNPOに関する知識がなかったわたしが1年間SLで現場に出て、今まで大学の講義などで学んできたことを踏まえて座学では学べなかったNPOの良さや楽しさをたくさん知ることができ自分にとってよい経験をさせてもらい成長できたと思うし充実した1年を過ごせた。

